

投資回収計算 早わかりブック + テンプレート付



※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご利用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。
※当資料は、2025年11月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

投資回収計算早わかりブック+テンプレート付

投資回収計画の概要

投資回収計画とは、投資を実行した際に、その資金をどのように回収するかを詳細に示す計画のことです。事業の採算性を判断し、投資の回収期間を明確にするための重要なツールとなります。

なぜ投資回収計画が重要か

事業を成功に導くためには、明確な計画と的確な実行が不可欠です。投資回収計画は、投資家が投資対象の収益性を見極め、資金の流れを明確にするために役立ちます。

投資回収期間の目安

従来は5年前後が一般的でしたが、不透明な経済環境下では長期的な投資判断はリスクを伴います。特に中小企業では2年以内の回収が基準とされますが、経営体力の消耗を防ぐためにも、1年以内など短期での回収を目指すことが望ましいとされています。

投資回収計算早わかりブック+テンプレート付

採算性の評価基準【回収期間法】

設備投資の採算性を評価する最も基本的な基準が「回収期間法」です。

回収期間法とは

投資した金額をどれくらいの期間で回収できるかを計算し、投資の妥当性を評価する方法です。計算がシンプルで分かりやすいのが特徴です。

計算方法

投資総額を、その投資によって得られる年間の現金獲得額（年間キャッシュ・フロー）で割ることで求められます。

【計算式】 $\text{投資回収期間} = \text{投資総額} \div \text{年間キャッシュ・フロー}$

・投資総額：設備の購入費用、設置費用、運転資金など、投資に関わるすべての費用。

・年間キャッシュ・フロー：投資によって得られる年間の現金獲得額。総収益から減価償却費を除いた経費を差し引いた、実際に手元に残る現金。

投資回収計算早わかりブック+テンプレート付

採算性の評価基準【NPV・IRR・ROI】

回収期間法に加え、より精密な投資判断のために以下の基準が用いられます。

1. 正味現在価値（NPV）法

将来得られるキャッシュ・フローを、現在の価値に換算（割引計算）した上で、初期投資額を差し引く方法です。NPVがプラス（ > 0 ）であれば、その投資は収益を生むと判断されます。

2. 内部収益率（IRR）法

投資から得られる将来のキャッシュ・フローの現在価値の合計が、投資総額と等しくなる割引率（＝NPVがゼロになる割引率）を求める方法です。算出されたIRRが、企業の期待する収益率（資本コスト）を上回る場合、その投資は採算が取れると判断されます。

3. 投資利益率（ROI）法

投資額に対してどれくらいのリターン（利益）が得られるかをパーセンテージで測定する指標です。ROIが高いほど投資効率が良いと判断されます。

投資回収計算早わかりブック＋テンプレート付

回収期間の計算【テンプレート（簡易例）】

投資回収期間は、投資総額を年間キャッシュ・フローで割ることで求められます。

項目	金額（または年数）
A. 投資総額	（例：1,000万円）
（内訳：設備購入費）	（800万円）
（内訳：設置費用）	（100万円）
（内訳：運転資金）	（100万円）
B. 年間キャッシュ・フロー	（例：250万円）
C. 投資回収期間 (A ÷ B)	（例：4年）